

【会情報】

【会員企業ご訪問：Vol 130】

国際化工株式会社（奈良支部）

今回は、御所市蛇穴にある国際化工株式会社の専務取締役 神末 宗和様、管理部シニアマネージャー 福本 延代様と製造部シニアマネージャー 棕本 修司様を訪ねました。

本社住所	奈良県御所市蛇穴 230
電話／FAX	0745-65-5931/0745-65-0169
資本金	4,000 万円
創業 会社設立	昭和 24 年 昭和 31 年 6 月 19 日
成形機	圧縮成形機 50 t ～ 450 t 計 51 台（自社 39 台・協力工場 12 台）、他射出成形機
従業員数	180 名（男 125 名・女 55 名）



神末 宗和 専務取締役（左）、
福本 延代 シニアマネージャー（右）

沿革

曾祖父が戦後、材料不足を補うプラスチックに注目し、大阪市中央区（現大阪支店所在地）において国際合成樹脂有限会社を創設し、卓上用品の販売を始めたのが創業のきっかけです。当時は安価なユリア樹脂が主流の中、祖父である初代社長が食品衛生法上の安全性や他の面を評価し、割高でしたがメラミン樹脂に目を付けました。その後、販路拡大のため東京へ進出し、昭和 31 年に品川区に日本初のメラミン食器専門工場を開設し、社名も国際化工株式会社に改称しました。さらに、生産拡大のため、初代社長の出身地である奈良に工場用地を求め、昭和 36 年に現所在地へ本社・工場を移転しました。

社名については、創業当時や改称した際も「国際」という言葉を含んでいますが、「世界を相手に競争できる企業になりたい」という意味合いが込められています。



本社工場外観



工場内



ビュッフェ対応食器「パレット」



エコメラミンを採用した食器「ミナモエコ」



業務用食器

製品について

使用材料の中心となっているメラミン樹脂は、熱を加えると硬化する熱硬化性樹脂であり、熱に強い性質を持っています。メラミン樹脂で成形した成形品は、圧縮成形技術と合わさることで陶磁器に近い質感と温かみのある製品となります。加えて、割れにくいいため、食器を大量に扱う社員食堂や学校・病院・高齢者施設などの集団給食用として多く使用されています。機能性やデザイン性も評価され、家庭日用品、ホテルの部屋回りのサニタリー用品まで幅広く利用されています。

また、環境に配慮した製品としてエコメラミンを開発しました。これまで、熱硬化性樹脂のメラミン樹脂は再生材料としての活用が難しいものでした。しかし、平成 21 年に製品のご使用先や再生業者、材料メーカーのご協力を得て、使用済みメラミン製品のリサイクルシステムを開発し、エコマーク認定を受けたエコメラミン製品が誕生しました。当初はホテルの客室備品から展開をしましたが、ISO14000 を取得しているお客様からの支持も得て、現在では食器でもシリーズ展開しており、年々出荷量が増加しています。

当社の強み

食物を直接入れる食器は安全性が第一です。そのため、品質保証体制が重要であると考えています。そこで、品質保証に対する企業の自己責任の厳格化や品質規格のグローバル化を踏まえ、

平成 20 年 4 月に品質マネジメントシステム ISO9001 認証を取得しました。国内規格への対応としては、昭和 39 年にプラスチック製食器類の日本工業規格（JIS S 2029）が制定されると同時に、業界に先駆け表示許可を取得し、その後平成 20 年 10 月以降に全面改定された新 JIS マーク表示制度に基づく認証も取得しています。これにより、

安全で安心なメイド・イン・ジャパンの製品を製造しています。

また、生活の一部である「食」の場を、ただお腹を満たすだけの場ではなく、コミュニケーションやリフレッシュの場と捉え、「デザイン」を重視した製品を数多く作っています。その結果、メラミン食器業界でも最多となる 21 製品がグッドデザイン賞を受賞するなど、高い評価を得ることができています。

今後の経営、技術課題

昔はプロダクトアウトで商売が成り立っていましたが、最近はマーケットイン型の開発が当たり前となっています。その中で、変化の激しい時代に対応するため、製品開発のスピードアップが求められています。また、製品の品質はもとより、納期や輸送中に破損しないような梱包方法など、徹底したサービスまで含めた品質の向上を図ることも課題であると考えています。



創業当初の生産機
ハンドルアップ式圧縮成形機

社員への教育

国家資格である成形技能士（圧縮成形・射出成形）の取得を社員に推奨しています。社員を講師とした社内研修の他、（一社）西日本プラスチック製品工業協会からも講師の派遣をお願いし、講習をしています。その結果、現在は特級 6 名、1 級 25 名、2 級 27 名、計 58 名の資格保有者がいます。

弊社の取り組み

ISO9001 に基づく品質マネジメントシステムの継続的改善について取り組んでいます。平成 20 年の審査登録時は、品質保証体制の再構築や団塊世代の定年退職を見据え、技能・手順といった経験知の見える化を目的としました。現在では、組織的な品質向上を図るツールとして、全社を挙げて改善活動に取り組んでいます。

※ 会社を拝見して ※

3K の払拭を図って、平成 19 年に工場の建て替え工事を実施されたとのことでしたが、9 年経過した現在でもとても綺麗に整理整頓がなされていました。これは長年にわたる社員教育により、5S 活動や品質管理に対する高い意識が社員の方々に浸透している結果の現れと感じました。また、食に携わる製品を製造していることから、安全性を保証することを非常に大事にしておられ、ISO と JIS のどちらか一方の取得が多い中、両方とも取得することで品質保証体制をより徹底するという姿勢が強く印象に残りました。

◎ありがとうございました

取材：事務局 矢野・平

※本記事記載の情報については、2016 年 6 月 13 日現在のもとなります。

掲載希望の方は事務局（06-6214-8300）までご連絡ください。